

病氣に加え、脚ぼろを併発している入居者。徘徊して保護されるまで13時間飲まず食わずだった。食事の時、口の中から出てきたのはドングリ。「腹が減ったから口に入れて我慢していた」という。むさぼるようにご飯を食べ始めたが、疲労がたまってたのか、食べながら寝てしまった



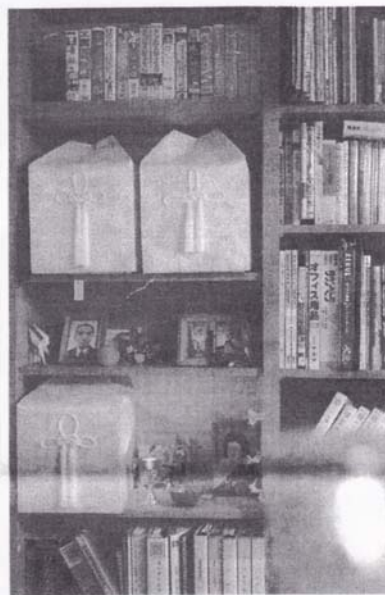
「きぼうのいえ」の前で行われた火災警報を怖くして逃げ出し、煙を吸った入居者



脳こうそくで入院していた松野輝一さん(56)。後遺症で言葉を失ったが「きぼうのいえ以外に帰る場所はない」と懸命のリハビリを行った。戻った日、礼拝堂で声を上げ泣いた(左は施設長の山本雅基さん)

東京・山谷のホスピス「きぼうのいえ」

老病死：安らかに



「きぼうのいえ」で亡くなった人の遺骨は事務所で大切に保管されていた。秋には共同墓地に埋葬される



WEEKLY

毎週木曜日掲載

東京・山谷の海濱から
歩いて数分、ヤ、(西野) さん(56)が昨年十月、開
泊街の中心に「きぼうの
いえ」はある。「身寄りが
ない、重い病の人たちが心
安らなで過ごせる場を」と
谷で働き始めた山本雅基さん(56)は、美濃を
ん(56)が昨年十月、開
泊街の中心に「きぼうの
いえ」はある。「身寄りが
ない、重い病の人たちが心
安らなで過ごせる場を」と
谷で働き始めた山本雅基さん(56)は、美濃を

「カキ」の
夜、松野輝一さん(56)は、美濃を
ん(56)が昨年十月、開
泊街の中心に「きぼうの
いえ」はある。「身寄りが
ない、重い病の人たちが心
安らなで過ごせる場を」と
谷で働き始めた山本雅基さん(56)は、美濃を